

コミュニティ薬局と介護拠点となる シニア向け AI スマート フィットネスジムの発展戦略

廖昱喬 (George Liao)

惠生大薬局 総経理

株式会社イーエフシー 台湾区スペシャルアシスタント

【要旨】

- 台湾のコミュニティ薬局と介護の現在進行形
- 60年の歴史を持つ老舗薬局の華麗なる転身による、専門医薬品を結び付け、地域の病院との提携、さらに介護拠点を導入した、高齢者向けの日常の公園作り
- 医療テクノロジーと高齢者間の溝と突破口
- 多角的なシニア向けカリキュラムで取り戻す高齢者の活発な社交と尊厳
- 設計、建築、IT、地方自治体、介護、医療、地方創生の多角的統合を含む、業界を跨いだ介護のエコロジカルチェーン

台湾の高齢化はかつてない課題に直面しており、医療機関や地域の薬局もまた介護需要が大幅に増加した後の転換のプレッシャーにさらされている。台湾における成功モデルである惠生大薬局は、60年の歴史を持つ老舗薬局から、どのように専門医薬品、スポーツ・フィットネス、シルバー世代にやさしい環境への改造、生活サービス、栄養相談、健康データ管理、遠隔医療サービスを結び付け、地域の病院と提携すると同時に、介護拠点を導入し、高齢者のための日常の公園を作ったのだろうか。

また、高齢者と AIOT による健康データといった医療テクノロジーとの間に溝があ

る中で突破口を見出した恵生大薬局は、いかにしてキーポイントを見つけ出し、とっつきにくいテクノロジーを利用したケアを人間的な温かみのあるサービスモデルにし、さらに多角的なシニア向けカリキュラムを組み立て、高齢者の活発な人付き合いと尊厳を取り戻したのだろうか。

シルバー世代の生活へのかかわりと人付き合いを増やした結果、生活能力の喪失と認知症を遅らせるのに良好な効果があることがわかった。

恵生大薬局は業界を跨いだ介護のエコロジカルチェーンも構築しており、そこには設計、建築、IT、地方自治体、介護、医療、地方創生の多角的な統合が含まれる。人としての観点から、ぬくもりのある運営モデルを発展させ、マスク生活において最も重要なコミュニティ薬局をより高いレベルに引き上げ、地域の介護と生活のケアにおける最前線を実現する。